



熊谷西 RC ・ 熊谷東 RC ・ 熊谷籠原 RC ・ 熊谷南 RC

4 クラブ合同例会

卓話者 藤間豊子さんによる 戦争体験談 熊谷空襲

昭和 20 年 8 月 14 日 夜のこと

日 時 / 平成 26 年 8 月 20 日 (水) PM 6 : 00 ~
場 所 / ホテルガーデンパレス 2F



藤間 豊子 さん

プロフィール

大正13年3月1日 熊谷市星川で生まれる。

熊谷西小学校、初年度卒業。熊谷女子高等学校
第26回卒業生。

21歳で結婚し、身重の身体で熊谷空襲にあう。
同時に父を亡くし、その後は経営者の長女、夫を
支える妻、家族を支える母、そして一人の女性とし
て人生を育んできた。

近年は、残り少ない熊谷空襲の語り部として要
請があれば精力的に取材協力している。明るく
大らかで笑顔が素敵な大和撫子。

実如襲つた空襲で逃げ場を失つた 墨江町境界限の惨状 (今は墨川)

熊谷寺

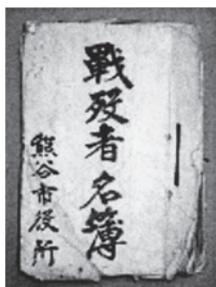
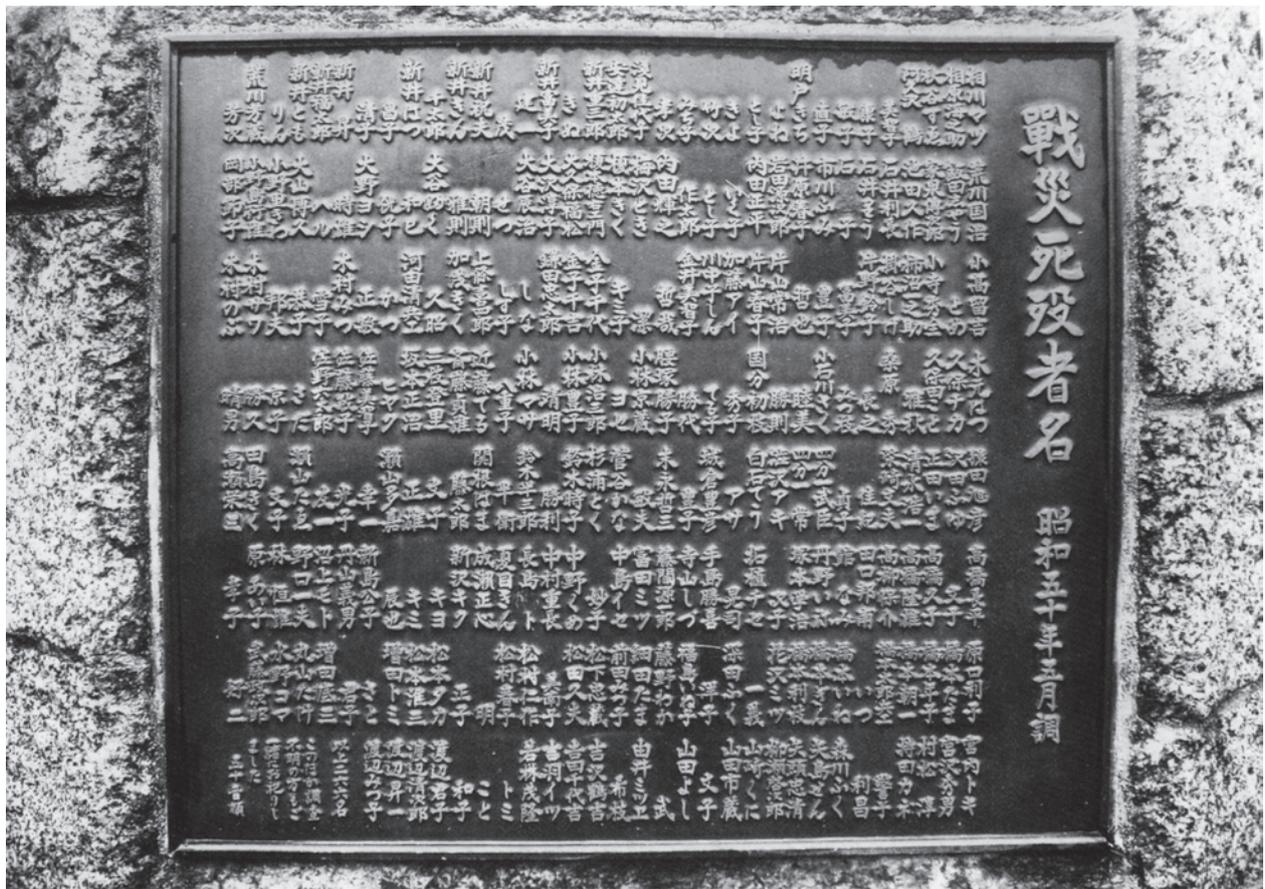
本町通り (旧仲仙道)



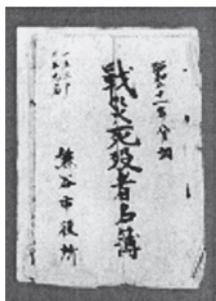
- 戦災殉難者名
- ① 武藤政次郎
 - ② 塚本学治 次子

- ③ 佐野六太郎
 - ④ 明戸きちよ ね子
 - ⑤ 持田力木 利子
 - ⑥ 藤野わか 昌子
 - ⑦ 藤野わか 昌子
 - ⑧ 藤野わか 昌子
 - ⑨ 藤野わか 昌子
 - ⑩ 藤野わか 昌子
 - ⑪ 藤野わか 昌子
 - ⑫ 藤野わか 昌子
 - ⑬ 藤野わか 昌子
 - ⑭ 藤野わか 昌子
 - ⑮ 藤野わか 昌子
 - ⑯ 藤野わか 昌子
 - ⑰ 藤野わか 昌子
 - ⑱ 藤野わか 昌子
- 計四十七名

星川保勝会



戦没者名簿



戦災死没者名簿

昭和21年8月調べのため、その時、合併していなかった吉岡村と太井村分の死者がこの名簿には記入されていないため、259名となっている。

昭和50年、戦災30周年に「戦災者慰霊の女神像」をつくり、そのうしろに、266人の死亡者の名前が刻まれています。

具体的に近所の方で亡くなられた人の名前を残されている文章もあります。例えば藤間久義氏の『市民のつづる 熊谷戦災の記録』(焼夷弾を踏み越えて)の中に「藤野紋屋のおぼあちゃんも防空壕で、木村医院のお宅で多勢、薦の明戸様でも全滅、山田さんでも4人やられた。」と、

また、田部井ゆきさんの「星川からはい出して助かった私たち」の中にも国分さん宅のことが記されています。

災 禍 の 概 要

地区名	罹災世帯数	同人員	死亡者	当時の世帯数
本町	七八二	三、一九五	九五	一、一四四
元町	五六九	三、三〇六	二七	九一一
宮町	三一五	一、二七七	四	九五六
荒川	一三五	五四〇	〇	六六八
筑波	四七五	一、九九九	二二	九〇五
銀座	三九五	一、七四三	二二	八二五
下石	四一七	一、七九三	二〇	一、〇三六
石原	三五八	一、五六五	三〇	九四二
東熊谷	一六七	九一〇	一四	九八二
中西	一三五	一五	〇	七六七
箱田	一三	四七	〇	八九二
佐谷	一	一	〇	一
久下	一	一	〇	一
太井	一	一	〇	一
万吉	一	一	〇	一
計	二二六六	七二二〇	二六六	二二六六

注1 罹災者中、住宅なき者、一、一八八戸(内引揚者四八八戸を含む)
 2 市街地のみをまとめると次のとおりである。

罹災者	戸数	被災面積
一五、三九〇人(内負傷者三、〇〇〇人)	三、六三〇戸、全戸数の四〇%	三五八、〇〇〇坪、市街地面積の七四%

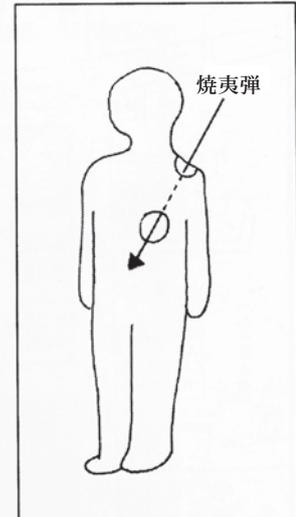
『熊谷市史』通史編より

非業の死・藤間源一郎氏

熊谷駅上空に数個の照明弾が投下され、青白い光線によって市内は白昼の様に明るくなると同時にごうごうたる独特のあのいまわしい B29 の編隊の爆音に眠りを覚すと 12 時頃猛烈な空襲となった。ザーという焼夷弾の落下音、それが電気館の壁に当りカランカランと大きな音を立てて地上に突きささって青白い高熱の火花を吹き出している。

一略一 第二波の焼夷弾攻撃を受けて庭にも縁側にも座敷にも我が家は数個の焼夷弾が命中し、一略一 三人で父を壕内から運び出し戸板にのせた。外に出すと火炎で明るいのでよく調べると焼夷弾の先端部が左肩から胸に突き抜けており、すでに息が切れているのがわかりました。

一略一 新井屋旅館に泊っていて此の空襲に会い、逃げのびて来た東京のお医者さんに出会い最後の脈をとって貰ったのが家族の者にとってはこの上ない慰めだった。一略一 其の後桜町の家（母の妹つまり叔母の家が桜町にあった）で、お通夜をする事にした。ごく身近な者だけで幸いお坊さんが来てくれ読経してくれたので嬉しかった。父は本当に満足そうに笑みを浮かべた顔で、亡くなっていたので家族の者達は救われる思いがしたが焼夷弾の毒が廻って来たのか、ふくれて青黒くなった時母の悲しみは見ていられなかった。以下略（藤間久義氏・墨江町『市民のつづる熊谷戦災の記録』より抜粋）



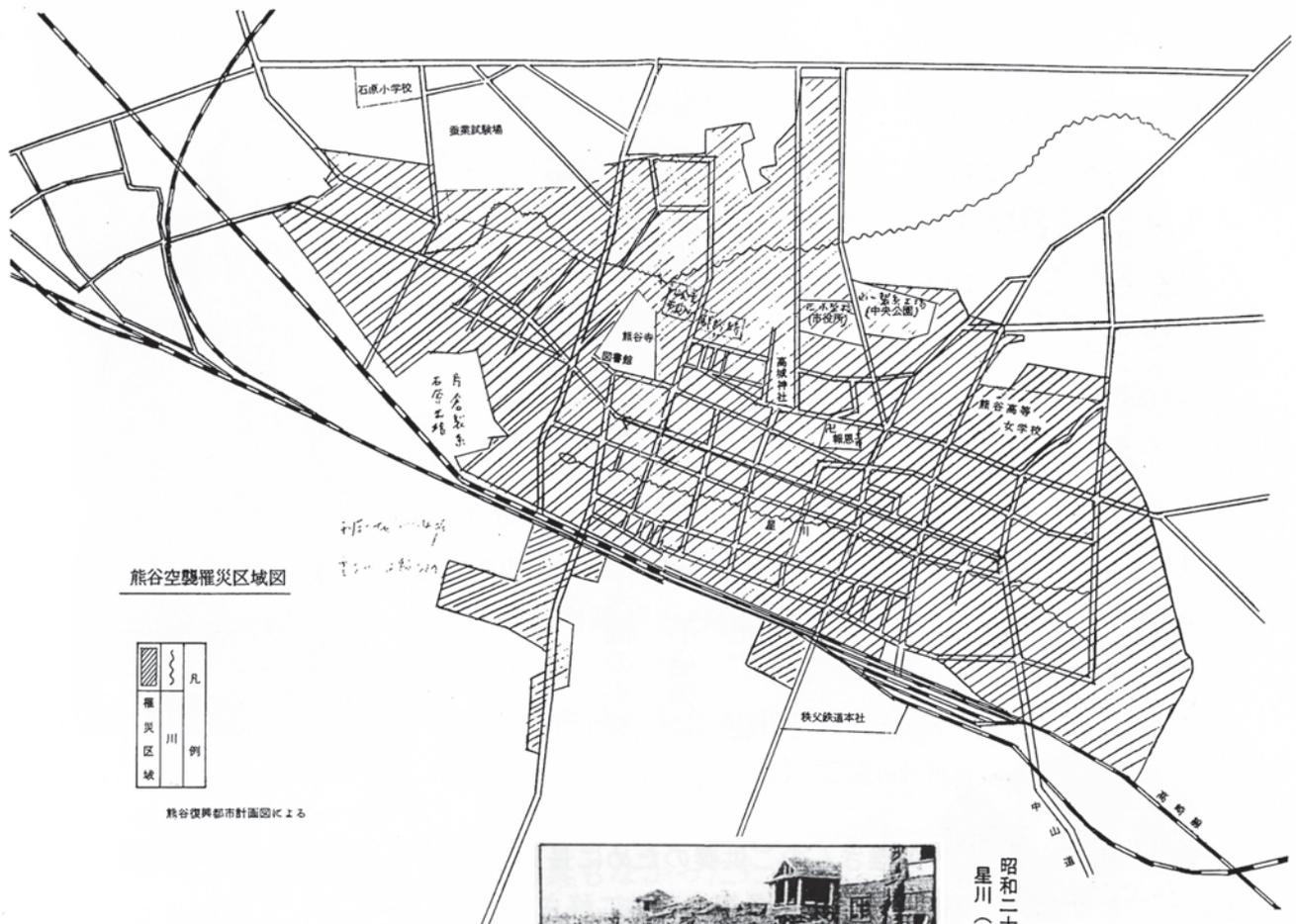
『もののふ』第 11 号
熊谷空襲(1983 年 9 月)
埼玉県立熊谷女子高校
日本史部より



血で染まった「神風」のはちまき

藤間あささんの手記にあるように、あささんの夫・藤間源一郎さん(当時 50 歳)は、昭和 20 年 8 月 14 日、熊谷空襲で、焼夷弾の直撃を受けて亡くなられた。写真の布は、その時、源一郎さんの胸のポケットに入っていたはちまきである。大量の血潮で染められたはちまきは、見る者に戦争の悲惨さと恐ろしさを語りかけてくる。

(『もののふ』第 11 号熊谷空襲(1983 年 9 月)埼玉県立熊谷女子高校 日本史部より)



熊谷空襲罹災区域図



熊谷復興都市計画図による

熊谷商工会議所会報
平成 17 年 10 月 15 日



昭和二十四年一月
星川（オキナヤ鉄工所
旧工場前の掘削工事）

“倉の大戸をしめに戻った夫の死”

藤間あさ 主婦（当時 45 歳）墨江町居住

8 月 14 日の夜は空襲警報が鳴らないうちに飛行機がとんできてまづ照明弾をバラバラ落としたものですから昼間のように明るくなりました。十二時頃猛烈な空襲になりました。

いつも私はモンペをはいて寝ていたのだけれどその晩は戦争が終るらしいということを知っていたので初めて寝巻を着かえて寝ていました。そこで着がえる間もなく縁側の傍の防空壕に入りました。間もなく八畳の座敷に焼夷弾が落ちてきました。とたんに廊下の大きなガラスにひびが入り、座敷がもえ出すのが分りました。日頃防空訓練で火たたきや砂をかけて火を消す練習をしておりましたがそんなことはもう役にたつものではありません。

主人は「あとからいくから子供たちをつれて早く逃げろ」といって倉の大戸をしめに戻りました。私たちは大露地から堤外へ逃げたのですが二間おきぐらいに焼夷弾が落ちてなかなか歩けません。主人がすぐこないのが心配でした。娘婿が家へもどってみると主人が防空壕の入口で左肩から焼夷弾の直撃を受けて死んでいました。翌日焼場へつれていきましたがむごたらしい死体が沢山並んでいました。焼場でも燃料がなく、こちらから焼け木杭をもっていかないと焼いてくれないのです。自分の庭先で焼いた人もいます。

この辺は西側から火が燃えてきたので少しでも水のある所へと星川に入った人が多いのですが、両側のもえた家の材木や壁が倒れてきて下敷きになったり、一酸化炭素中毒で外傷のないまま死んでいる人が沢山おりました。

うちの主人はもともと戦争には反対のようでした。鉄工所を経営し機械を扱っていたので「アメリカの技術は日本とは比べものにならないほどよい、モンキー（道具）一つとっても品質が違う、なぜアメリカを相手にして戦争など始めたのだろう」といっていました。

（「熊谷空襲について」 長島二三子氏 1988・7・31 の吹上町公民館での講演会資料より）

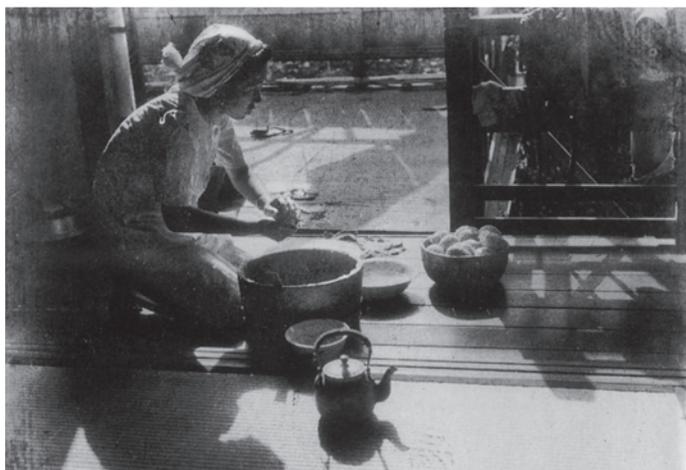


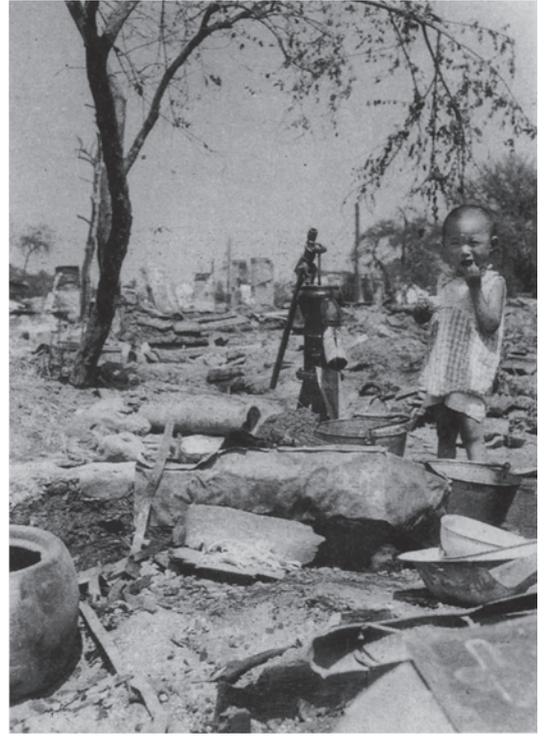
写真は、現在の八木橋の北側にある北村写真館から西を向いて撮影されたものです。真ん中の左から右に通っている道路は、現在の県道太田・熊谷線です。左の写真に写っている巨大な煙突は、石原一丁目にあった松崎醤油の煙突です。すぐ左には防空監視哨、右の方には煙に霞んだ近藤緋染工場の煙突も見られます。終戦前夜に受けた空襲の惨状を余すところなく伝えた貴重な記録写真といえます。

焼けあとのかたづけ

昭和20年8月16日

— 石原地区 —





終戦の翌日8月16日の惨状





8月17日頃の
かたづけ作業

— 石原地区 —



監視哨





昭和52年 取りこわし作業風景



平井 隆氏 撮影提供

この写真は、昭和20年の8月下旬～9月上旬の頃、石原一丁目の定方製箱と近藤油屋の間の空き地にあった防空監視哨から西南方向を撮影したものです。中央の壁は、近藤油屋の倉庫の西側の壁です。そのすぐ後ろには、近藤緋染屋の煉瓦壁が焼け残っています。左下から右上に伸びる中山道を挟んで、写真の左端に松岩寺の山門が残っています。又、その西側には、阿久沢魚屋の大きな倉庫が残っています。この写真から、中山道に沿って大きな被害を被った様子が見え取れます。

